2019 年度

農検２級

日本農業検定２級試験問題

全 70 問

試験時間 60 分

注意事項

※監督者の指示があるまで、この問題を開いてはいけません。

※問題冊子の持ち帰りはできません。

空白ページ

空白ページ

問１ 農業について説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①農業の基本的な役割は、人々の生命を支える食料(農産物)の安定生産にある。

②「適地適作」とは、その地域で栽培しやすい作物を育てることで、農業を行う基本として昔から言い伝えられてきた。

③農業に係わる生物には、生産対象の農作物に加えて、病害虫、雑草、受粉昆虫や天敵生物等が含まれる。

④病害虫の発生を抑えるには、まず土着天敵を駆除しなければならない。

問２ 世界の人口増加と穀物需給についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①２０１６(平成２８)年の国連の人口推計によれば、２０１５(平成２７)年の世界人口約７３億人が、２０２５年には８１億人を突破する見込みである。

②穀物消費量が増加しているのは、人口の増加と合わせて畜産飼料へのトウモロコシやオオムギなどの利用が拡大していることである。

③世界の穀物生産は、極端な気象現象および水資源の制約により、生産量の減少(不作)の危険性が大きくなっている。

④２１世紀に入ってからのトウモロコシ・コメ・ダイズの期末在庫率は３０%を維持している。

問３ 食料自給率の指標についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①「生産額ベース食料自給率」は、品目別の重量を金額に換算し、国内全体の食料消費仕向け金額のうち、国内で生産された金額の割合を算出したものである。

②米や豚肉などの「品目別自給率」は、それぞれの国内で消費された金額のうち、国内で生産された金額の割合を算出したものである。

③「カロリーベース食料自給率」は、国民に供給された食料の重量をカロリー(熱量)に換算し、そのうち国産でまかなわれた割合を示したものである。

④「カロリーベース食料自給率」は生産に投下された労働などの経済価値を評価できない。

問４ わが国の食料自給率(カロリーベース)の状況についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①１９６５(昭和４０)年には７３%であった食料自給率が、５０年後の２０１５(平成２７)年には３９%にまで低下した。

②日本の食料自給率は、先進国の中ではイギリスに次ぐ低さとなっている。

③自給率低下の背景には、生産しやすい米の消費が減り、飼料を海外に依存する畜産物や、原料を海外に頼る油脂類の消費が増えてきたことがあげられる。

④畜産物については、国産であっても自給飼料による生産分しかカロリーベースの自給率には算入されず、輸入飼料による生産分は差し引かれている。

問５　農業就業者についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①農家出身で、親の土地や資金を引き継ぎ、新たに農業経営に参加した者を新規参入者という。

②農業就業人口は１９９０(平成２)年には４８０万人を超えていたが、２０１６(平成２８)年に２００万人を割り込んだ。

③基幹的農業従事者とは、農業就業人口のうち、ふだんの仕事として「おもに農業に従事している者」のことである。

④基幹的農業従事者は２０１６(平成２８)年には１６０万人弱まで減少し、平均年齢は６７歳で６５歳以上が全体の６５％と高齢化が進んでいる。

問６　日本の農地(農業耕地)についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①農地面積は近年ゆるやかな減少傾向にあり、２０１６(平成２８)年は前年より７万５，０００ha 減って、約７６０万 ha となった。

②２０１６(平成２８)年の農地面積の内訳は、田が全農地面積の約５４％で畑は約４６％であった。

③１９９０(平成２)年以降、耕作放棄地は増加し、その面積は２０１５(平成２７)年には４２万 ha 強となり、富山県の全面積に匹敵するまでになった。

④農地が耕作放棄地になると、その土地が荒れるだけではなく、周辺の農地にも雑草や病害虫が広がったり、野生鳥獣による農作物への被害が出てくる。

問７　農畜産物の生産と需給状況についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①主食用米は、価格の暴落を避けるため過剰な作付けの解消につとめ、飼料用米や加工用米への転換を進めている。

②食の外部化を背景に、野菜の国内需要は加工・業務用が約６割を占めている。

③果実の栽培面積や生産量は緩やかな減少傾向にあり、果実の摂取量は、生鮮果実より果汁などの加工品が伸びている。

④畜産は、どの畜種でも飼養戸数が減少しているが、黒毛和種の肉用子牛価格が高騰しているため、子牛を生産する繁殖経営農家だけは増加している。

問８　農業・農村の多面的機能についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①田畑からの水分の蒸発や、作物の葉からの蒸散によって空気が冷やされ、周辺市街地の気温上昇を抑える効果がある。

②田んぼのイネは光合成を行うことによって、大気中の二酸化炭素を吸収して、代わりに酸素を放出し、大気をきれいにしている。

③田畑は自然との調和を図りながら継続的な手入れがされているので、豊かな生態系をもった一次的自然が守られている。

④田畑に育つ作物や農家の家屋、その周辺の水辺や里山が一体となって、都会には無い美しい農村景観を形成している。

問９　農産物直売所についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①生産者自身が農産物を持ち込み、自ら価格を決めることができる。

②流通経費を削減できることで、その分を農家の所得増加に結び付けることができる。

③消費者は、身近で新鮮な農産物を買うことができる。

④農水省の調査では、全国の農産物直売所における販売金額は２０１４(平成２６)年に７,０００億円であった。

問１０　スマート農業についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①農水省はロボット技術や ICT(情報通信技術)を活用して、超省力・高品質生産を実現する新たな農業形態を「スマート農業」と呼んで推進している。

②閉鎖された環境で、蛍光灯や LED を光源にした養液栽培による植物工場が伸びており、建設費は高いが、多くの場合黒字経営を実現している。

③農業へのドローンの活用が進み、カメラを搭載して撮影した画像データによる収穫時期の判断、農薬散布の効率化に役立っている。

④農家の人手不足を補うために、無人のロボットトラクターや収穫ロボットなどの開発が進められている。

問１１　女性農業者の活躍についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①２０１６(平成２８)年の調査によると、約１６０万人いる基幹的農業従事者のうち、女性が半分以上を占めるようになった。

②特産品、農産加工品づくりや、直売所や農家レストランの運営など女性による起業活動の範囲が広がり、地域社会の活性化に貢献している。

③６次産業に取り組む農業経営に女性が参画している経営体では、参画していない経営体に比べ、売り上げや収益力が向上していると報告されている。

④農水省が立ち上げた、「農業女子プロジェクト」では、女性ならではのアイデアを参画企業が取り入れ、農業を選択する女性の増加を図っている。

問１２　生態系の中で行われている物質循環についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①植物は、光合成作用によって炭水化物を作り出し、大気中に酸素を放出している。

②動物は、植物が葉緑体の中で作り出した無機物を取り込むことによって生命活動をしている。

③動物の排せつ物や植物の落ち葉などは、土壌中の微生物や小動物によって無機物に分解され、この無機物を植物が根から吸収している。

④生態系の中で植物、動物、微生物の間を物質が巡り巡っている状態を物質循環という。

問１３　農業生態系についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①田や畑、果樹園など農業が行われることによって維持されている生態系を農業生態系という。

②除草や病害虫防除によって生物種が少なくなるので、物質循環は単純で途絶えやすくなる。

③収穫物として有機物を持ち出したり、施肥として失われた肥料分を補給するという物質の出し入れがあるので、生態系は不安定になりやすい。

④作物の生育を良くするために人が除草等で手を加えているので、自然生態系に比べて安定しやすい生態系である。

問１４　環境保全型農業についての説明で、間違っているものは、次のうちどれですか。

①環境保全型農業直接支援対策によって、化学肥料等を５割以上低減する取組や地球温暖化防止に効果の高い営農活動に対して支援が行われている。

②環境への負荷をなくすために、化学肥料や農薬の使用を完全にやめ、物質循環機能を活かした持続的な農業を環境保全型農業という。

③２００５(平成１７)年に、環境と調和の取れた農業生産活動を行うにあたって、農業者が最低限取り組むべき「農業環境規範」が作られた。

④環境保全型農業を推進するため、「食料・農業・農村基本法」で、農薬及び肥料の使用や自然循環機能の維持等について定められている。

問１５　富栄養化についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①農地に肥料成分が多くなり過ぎ、作物の成長に悪影響を及ぼしている状態。

②作物が吸収できずに残ってしまう量を施肥された土壌の状態。

③農地に残った肥料成分が川や湖、海に流れ込み、そこに含まれる栄養分が自然の状態より多くなりすぎた状態。

④人の健康に影響が出るほど、作物の体内に多量の硝酸態窒素が蓄積している状態。

問１６　里地里山についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①雑木林は薪などの燃料の供給源であると同時に、家畜の飼料や農地に入れる堆肥の供給源であった。

②奥山、雑木林、竹林などの自然と人里をまとめて里地里山と呼んでいる。

③昔から里地里山は過度な利用を防ぐため、集落でさまざまなしきたりを設けて荒廃を防いできた。

④人の手が入らなくなった里地里山では、雑草・害虫の増加、景観の破壊、野生動物による被害などさまざまな影響が出ている。

問１７　生物多様性を守る国際的な取り決めについての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①貴重な高山植物を守るためにイランのラムサールで採択されたラムサール条約。
②希少な野生動植物の種が不法に輸出入されることがないように保護するワシントン条約。
③海洋生物の遺伝子の多様性を守るために採択された生物多様性条約。
④絶滅危惧種の保護と繁殖に関わる国際協定である京都議定書。

問１８　土壌や水質の汚染についての説明で、間違っているものは、次のうちどれですか。

①施肥された肥料の中で、作物が吸収しきれなかった硝酸態窒素は地下水に溶け込み、飲料水などを通して人体に吸収されることがある。
②農用地土壌汚染防止法によりカドミウム・銅・ヒ素が農用地の土壌に有害な物質として指定され、汚染対策事業が行われている。
③水質汚濁防止法は、工場や事業場の排水による地下水汚染の防止を目指した法律で、被害が出た場合の損害賠償については定められていない。
④作物が吸収しきれない量の肥料を農地に投入すると、塩類濃度障害によって作物が枯死することがある。

問１９　オゾン層についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①地表面から約２５㎞上空にあるオゾンを多く含む層がオゾン層である。
②オゾン層には紫外線を吸収する働きがあるので、地上に降り注ぐ紫外線の量が軽減されている。
③特定フロンが地上４０km ほどに上昇すると、強い紫外線を受けて分解され、塩素原子が放出されるが、この塩素原子の影響でオゾン層が破壊される。
④南極のオゾンホールの面積は８０年代から急激に拡大し、現在も広がり続けている。

問２０　食品表示についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①食品衛生法の廃止に伴い２０１３(平成２５)年に「食品表示法」が策定された。
②消費者に対して食の安心安全を保証するために、表示すべき内容が食品表示基準に定められている。
③生鮮食品における原産地名は、国産の場合は「市町村名」、輸入品は「輸入相手国名」を表示することになっている。
④広範囲に遊泳している魚の場合は、原産地が特定できないので、国産品は「国産」と表示し、輸入品は「漁獲船の国籍」を表示することになっている。

問２１　加工食品の表示についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①表示義務は、「名称」「原材料名」「添加物」「内容量」「賞味期限(消費期限)」「栄養成分」「保存方法」「表示内容に責任を持つ者」「所在地」の９項目である。

②アレルギー被害を防ぐために、その危険度の高い６品目(えび・かに・小麦・そば・卵・乳)を含む加工食品には、特別に表示が義務づけられている。

③アレルギーの被害を防ぐために、義務づけられている「特定原材料」以外に、それに準ずるものとして２０品目の表示が推奨されている。

④栄養成分表示は、「熱量」「タンパク質」「脂質」「炭水化物」「ナトリウム(食塩相当量に換算したもの)」の５項目が、義務表示となっている。

問２２　機能性を表示することができる食品についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①特定保健用食品は、消費者庁長官から具体的な機能性の表示が許可された食品で、定められた許可マークをつけて販売される。

②総合機能食品は、不足している栄養分を補給するために用いられる食品で、科学的根拠が確認された栄養成分が定められた量の範囲で含まれている。

③機能性表示食品は、安全性及び機能性の根拠に関する情報などを消費者庁長官へ届け出て許可を受けた食品で、定められた許可マークをつけて販売される。

④機能性の表示ができる食品には、「特定保健用食品」「機能性表示食品」「栄養機能食品」「総合機能食品」の４種類がある。

問２３　食品の安全についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①食品安全基本法は、食の安全を脅かす事件の多発を受けて、１９９０(平成２)年に施行された。

②内閣府に創設された食品安全委員会は関係行政機関から独立して、食品の健康への影響に対する科学的な研究に基づいたリスク評価を行っている。

③食品衛生法は、医薬品を除いた「すべての飲食物(医薬部外品を含む)」が規制の対象となっている。

④農薬などが基準値を超えて残留する食品の販売、輸入などは食品安全基本法によって禁止されている。

問２４　食品の保存についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①およそ０℃～１０℃で保存することを冷蔵保存という。

②肉や魚、納豆、ヨーグルトなどはチルド室(０℃前後)での保存が望ましい。

③生野菜を干し野菜にするとビタミンＣは増えるがビタミンＢ群は減少する。

④肉や魚、調理済み食品などは冷蔵保存だけでなく冷凍保存もできる。

問２５　栄養素の働きについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①炭水化物のうち糖質はエネルギー源になり、食物繊維は腸の調子を整えるなど健康に良い働きをする。
②無機質は、エネルギー源で細胞膜やホルモンなどの主な原料になる。
③タンパク質は、アミノ酸で構成され、筋肉や臓器、血液などの構成成分となり、エネルギー源にもなる。
④ビタミンはおもに体の調子を整える働きをし、野菜やいも類、果物、穀類などに多く含まれている。

問２６　６つの基礎食品群についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①１群は、エネルギー源となる炭水化物を多く含む食品群で、主食となる米・パン・麺・いもなどが入っている。
②２群は、主に体の組織をつくるたんぱく質を多く含む食品群で、魚・肉・卵・豆・豆製品などが入っている。
③３群は、体の調子を整えるおもにビタミンＣを多く含む食品群で、緑黄色野菜などが入っている。
④６群は、エネルギー源となる脂質を多く含む食品群で、バター、ごま油、マヨネーズなどが入っている。

問２７　米(ごはん)の栄養と働きについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①ごはんの主成分は、脳や体のエネルギーになる炭水化物である。
②ごはん１杯分(１５０g)に含まれるたんぱく質含量は、牛乳１００cc より少ない。
③ごはんに含まれる炭水化物はレジスタントスターチと呼ばれ、消化吸収がゆっくりである。
④ごはんには亜鉛などのミネラル類や食物繊維も含まれている。

問２８　食材の旬について、間違っているものは次のうちどれですか。

①春＝新キャベツ、きぬさや、新タマネギ、アスパラガス、いちご
②夏＝なす、えだまめ、オクラ、ニガウリ、すいか
③秋＝まつたけ、かぶ、チンゲンサイ、柿、ぶどう
④冬＝ほうれんそう、山いも、ごぼう、うど、温州みかん

問２９　微生物の種類と発酵食品についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①麹菌は、糖を分解してアルコールと二酸化炭素を作り出し、味噌・醤油・漬物・日本酒などの製造に使われる。

②酢酸菌はデンプンを糖に、たんぱく質をアミノ酸に分解する働きをし、味噌・醤油・漬物・などの製造に使われる。

③乳酸菌は、糖を分解して乳酸を作り出すが、腸内に住む常在細菌でもあり、腸内環境を整える働きをする。

④納豆菌は、枯草菌の一種で稲わらなどに広く存在するが、熱に弱い性質を持っている。

問３０　だしについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①だしを効かせることで減塩がしやすくなり、健康を守ることにつながる。

②かつおだしのおもな成分はイノシン酸で、削りかつおを沸騰したお湯に１～２分入れ、ザルや布でこす。

③昆布だしのおもな成分はグルタミン酸で、昆布を水に３０分～１時間、浸してから中火にかけ、沸騰直前に取り出す。

④椎茸だしのおもな成分はイノシン酸で、干し椎茸を柔らかくなるまで１～２時間水に入れておくとだしがとれる。

問３１　家庭での食中毒の予防方法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①肉や魚はビニール袋や容器に入れ、ほかの食品に肉汁などがかからないようにする。

②肉や魚は中心部を７５℃で１分間以上を目安に加熱する。

③解凍後に残った冷凍食品も、一度冷蔵してから再び冷凍すると安全に保存ができる。

④ふきんやまな板は使用後よく洗い、煮沸消毒や漂白剤で殺菌し、しっかり乾燥させる。

問３２　BMI についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①BMI は、適度に栄養が摂取できているかを表す指標である。

②BMI は体重(kg)を身長(cm)で割って求めた数値である。

③BMI は体重(kg)を身長(m)の２乗で割って求めた数値である。

④食生活指針では１８歳～４９歳の人の BMI 目標値を２６としている。

問３３　各地に伝わる郷土食について、都道府県との組み合わせが間違っているものは次のうちどれですか。

①じゃっぱ汁‥‥‥‥青森県

②だし‥‥‥‥‥‥‥‥秋田県

③冷や汁‥‥‥‥‥‥‥宮崎県

④ふなずし‥‥‥‥‥‥滋賀県

問３４　種子についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①トマトは有胚乳種子である。

②有胚乳種子は胚乳の中のデンプンなどが、発芽するときの栄養源となる。

③無胚乳種子は子葉に蓄えられた栄養分を吸収して育っていく。

④インゲンの子葉は地下子葉型である。

問３５　野菜の種子の寿命と保存法についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①種子を保存する場合は、種子の呼吸代謝を抑制し、貯蔵養分の消耗を防ぐことが大切である。

②適切な状態で保存した場合、トマトの種子の寿命は１～２年が目安となる。

③適切な状態で保存した場合、ニンジンの種子の寿命は１～２年が目安となる。

④種子はお茶の空き缶などに乾燥剤と一緒に入れて密封し、冷暗所で保存すると良い。

問３６　種子の発芽適温についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①２０～２５℃の範囲に発芽適温が含まれている野菜が多い。

②ホウレンソウの発芽適温は１５～２０℃である。

③キュウリの発芽適温は２５～３０℃と高い。

④同じ種類の野菜ならば、品種が違っても適温は同じである。

問３７　蒸散作用についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①蒸散は、葉にある気孔から水分が水蒸気となって空気中に出ていく現象をいう。
②蒸散は、根が水分を吸収するための最も大きな原動力になっている。
③蒸散には、高温時の日中に葉面の温度を下げて、光合成量の低下を防ぐ効果がある。
④蒸散は、肥料養分の過剰な吸収を抑えることにも役立っている。

問３８　花芽分化についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①レタスは低温感応性で、２０℃以下の低温に一定期間合うと花芽を分化する。
②イチゴは長日作物で、日が長くなってくると花芽を分化する。
③ホウレンソウは短日植物で、日が短くなると花芽を分化し、とう立ちする。
④ナス科の野菜は中性植物で、一定の大きさに成長すると花芽分化する。

問３９　花のつくりについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①雄しべの先端の小さな袋は葯(やく)と呼ばれ、花粉が入っている。
②両性花は、花の中心に雌しべがあり、そこから外に向かって雄しべ、花弁、がくが付いている。
③イチゴの花は、雌花と雄花が別々に咲く単性花である。
④ナスの花は、ひとつの花に雌しべと雄しべを持つ両性花である。

問４０　果実の肥大についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①果実は受粉・受精したあとで、植物ホルモンによって胚珠が発達してできた器官である。
②キュウリは、受精しなくても果実が肥大する単為結果性(たんいけっかせい)の作物である。
③単為結果性をもつ果実には、温州ミカンやイチジクがあり、種なしの果実になる。
④ナスやミニトマトでも単為結果性の新品種が開発されている。

問４１　雨よけ栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①トマトなど露地栽培の野菜の上に不織布の屋根をかける栽培法である。
②雨よけによって、高湿度で発生し雨で伝染する病気の被害を抑えることができる。
③夏の強い日差しをさえぎり、トマトの日焼け障害を防止できる。
④雨よけ栽培は、ブドウやサクランボなどの果樹でも定着している。

問４２　害虫防除についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①日頃の観察により、害虫の卵や若齢幼虫の早期発見が大切である。
②周囲の雑草は、害虫の好適な住みかとなるので、こまめに除草する。
③輪作・混作は、病気の予防には役立つが、センチュウなどの害虫防除には効果がない。
④防虫ネット(防虫シート)やシルバーマルチなどの活用で、害虫の飛来を抑えることができる。

問４３　土壌の団粒化についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①単粒構造の土を団粒化するには、土壌中に腐植を増やすことが必要である。
②土壌が団粒化すると、水はけや通気性がよくなるが、水もちは悪くなる。
③水はけの悪い粘土質土壌には、有機物の他に砂を加えると、団粒化を促進することができる。
④水もちの悪い砂質土壌には、有機質の他に粘土を加えると、団粒化を促進することができる。

問４４　有機質肥料についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①化学肥料に比べて成分量当たりの価格が安い。
②品質にばらつきがあり、適切な施肥設計を立てにくい。
③供給量が多いので価格の変動が少ない。
④分解の過程で発生する有機酸が種子の発芽を促進させる。

問４５　連作障害についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①土壌中に特定の病原菌や害虫の卵・幼虫が増えることによって起こる。
②同じ作物の根が出す毒性物質が増えて、作物自身が自家中毒を起こすことによって起こる。
③作物による肥料養分の吸収に片寄りが起こるので、特定の養分の欠乏症が出ることによって起こる。
④サツマイモやカボチャは連作障害が出やすい。

問４６　育苗・移植栽培の利点についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①ひ弱な幼苗期をハウス内で育てるので、虫害、悪天候を避けられる。
②定植時には大きくなっているので、雑草に負けない。
③本畑での生育期間が短縮できるので、畑を無駄なく使える。
④葉菜類の中ではホウレンソウが移植栽培に適している。

問４７　灌水(かんすい)についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①土の乾き具合をよく観察し、作物の生育状態に応じて不足する水を補給する。
②灌水は土の表面の乾き具合に関わらず、毎日行なうようにする。
③夏場は土の温度を下げるために、日差しが強くなった日中に行う。
④冬場は、灌水した水に保温効果があるので、夕方に行なう。

問４８　直まき栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①苗をつくらずに畑やプランターに直接播種して収穫まで育てる方法である。
②根菜類や果菜類は、移植すると根が傷むので必ず直まき栽培する。
③軟弱な葉菜類で生育期間が短いものは直まき栽培が適している。
④直まき栽培の播種は、外気温がその作物の発芽適温になった時期に行なう。

問４９　果菜類の栽培で、成長する高さを抑えるために行なう作業として、正しいものは次のうちどれですか。

①摘芽(芽かき)

②摘しん(芯)

③摘葉

④摘果(花)

問５０　作物への追肥についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①生育のため吸収された肥料成分を補給する。

②降雨や灌水で流れた肥料成分を補給する。

③作物の生育段階に応じて、必要な肥料成分を補給する。

④サツマイモはイモの肥大を促進させるために、２週間に１回の追肥を続ける。

問５１　イネの収穫後の作業についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①収穫後に生もみを乾燥させる一番大きな目的は、食味を高めることである。

②生もみの乾燥は、カントリーエレベータなどの共同施設で行なうことが多い。

③乾燥したもみは、もみすりを行ない、もみ殻と玄米に分ける。

④玄米を精米して白米や胚芽米にする。

問５２　田んぼの水管理についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①田んぼの水量は常に一定ではなく、イネの成長にあわせて変えていく。

②田んぼの水は水温２０～３０℃の新鮮で温かな水を必要とする。

③幼穂ができる前に、肥料の吸収を促すため、田んぼの水を一時的に抜く作業を中干しという。

④中干し後、穂が出始めるまでの間、酸素の補給をするために水の出し入れを繰り返す。

問５３　サツマイモの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①甘みが強く粘質な安納いもは、鹿児島県種子島の在来品種である。

②イモヅル苗は元の方の４～５節を土の中に入れ、穂先の葉は外に出すように植えつける。

③乾燥が続き、活着が心配されるとき以外は、灌水しなくてよい。

④イモヅル苗の植え付け適期は気温が２５℃を超えたころである。

問５４　サツマイモの肥大についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①イモの葉でつくられた養分は、茎葉の伸長に使われるとともにイモの肥大のためにも使われる。

②窒素肥料よりリン酸肥料の割合が高いと、イモの肥大が進む。

③イモの肥大を促すために、栽培期間中２回ほど土寄せを行う。

④イモの肥大を促すために、定植２ヶ月後から、２週間に１回、窒素肥料を追肥する。

問５５　ジャガイモの種イモについての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①ジャガイモの病気の拡大を防ぐため、検査に合格している種イモを購入することが大切である。

②１つが１００ｇまでの大きさのものを使い、それ以上大きなものは、種イモとしては使えない。

③ジャガイモは収穫後しばらくの間は芽が休眠しているので、芽が休眠から覚めて成長を始めてから植え付けをする。

④種イモに浴光育芽を行なうと、強く短い芽が出る。

問５６　ジャガイモの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①そうか病が出やすい畑では、植付け前に苦土石灰を散布する。

②種イモを植付けた後は、ほう芽を良くするために十分な灌水が必要である。

③土が乾燥しているときに掘り取ると、イモの水分がなくなり保存性が低下する。

④イモが土の表面に出ると、イモの表面が緑化するので、土寄せを行なう。

問５７　ニンジンの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①嫌光性種子(けんこうせいしゅし)で、覆土が薄いと発芽率が低下する。

②水は、生育前半は少なめがよく、根の肥大期以降は多めがよい。

③根に割れ目が生じる生理障害を岐根という。

④耕土が深く、排水性・保水性がよく、有機質が多い土を好む。

問５８　ネギの基本的特性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①耐暑性、耐寒性ともに強い。

②光の弱い冬期の栽培や密植栽培も可能である。

③土壌が過湿だと酸素不足による害を受ける。

④根深ネギの葉鞘部の軟白化は、気温が高いときは時間がかかり、低いときは早くなる。

問５９　ハクサイの基本的特性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①生育前半の適温は１８～２０℃だが、結球期の適温は２５℃である。

②弱光にも耐えるが、結球期には多くの光を必要とする。

③石灰の吸収が悪くなると病気が発生しやすくなる。

④結球ハクサイは耕土が深く、排水のよい土でしっかりと結球する。

問６０　ブロッコリーの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①中生品種の花蕾(からい)の形成・発育には、２０～２３℃の温暖な気候が適している。

②わき芽の先端にできる花蕾を収穫するタイプを側花蕾型(そくからいがた)と呼んでいる。

③根は浅く、吸水力も低いので、乾燥には弱い。

④酸性土壌に強く、pH４.５～５が適している。

問６１　ブロッコリーの花芽分化と花蕾の発育障害についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①ブロッコリーは、高温に感応して花芽を分化する緑植物感応型の野菜である。
②ブロッコリーは低温に感応して花芽を分化する種子感応型の野菜である。
③ボトニングは、苗が小さいうちに低温に合い、花蕾が小さいままとなる障害である。
④リーフィヘッドは、花蕾の発育中に低温に合い、花蕾の間に小さな葉ができる障害である。

問６２　ホウレンソウの基本的特性についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①耐寒性はあるが、夏の暑さには弱い。
②短日・低温条件でとう立ちしやすい。
③酸性の土壌を好む。
④西洋種は日長に敏感なので春まき栽培には適していない。

問６３　カボチャの果実管理の説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①果実の形を整え、表面を均一に着色させるため、果実の向きを置き直す作業を「玉直し」という。
②果実が肥大してきたら、成熟を早めるため、果実の周囲の葉を除去して、果実に直射日光を当てる。
③ヘタの部分が茶色っぽく縦にヒビ割れし、コルク化したら収穫適期である。
④収穫後、風通しのよい日陰に２週間以上置いておくと果肉の糖度が上がる。

問６４　キュウリの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①現在日本で栽培されている品種の大半は、皮が薄く歯切れが良い白いぼキュウリである。
②カボチャを台木にした接ぎ木苗にすると、キュウリの果皮にブルームが出る。
③果皮に白い粉がついていない「ブルームレスキュウリ」は、品種改良によって生まれたものである。
④病気が発生しやすい梅雨明け後は、灌水量を控えめにすることが大切である。

問６５　スイカの基本的特性についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①スイカの花は雄花・雌花および両性花がある。

②ウリ科のなかで最も強い光を必要とする。

③排水のよい砂土(さど)、砂壌土(さじょうど)などが適している。

④生育適温は２５～３２℃で夜温も２５℃を下回らない方が充実した雌花がつく。

問６６　トマトの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①定植する苗は、最初の蕾が開きかけた頃の苗がよい。

②トマトは同じ向きに花をつけるので、蕾を通路側に向けて植えると、収穫が楽になる。

③雨は実割れや疫病などの原因になる。

④苗が小さいうちに摘しんを行なうと、実の付きや肥大がよくなる。

問６７　ナスの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①生育と果実の着色には、十分な光が必要である。

②水分を好み乾燥に弱いので、灌水はたっぷりと行なう。

③ナスの栄養状態が不良になると、雄しべが雌しべより短くなるので、これを追肥の目安にする。

④７月下旬～８月上旬に老化した枝や根を切り、株の若返りを図ることを更新剪定という。

問６８　ピーマンの栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①一番果が着果したら早めに摘果し、株が弱らないようにする。

②根が広く深く張っていくので、乾燥と多湿に強い。

③一番花は、主茎の成長点が花芽分化したものである。

④緑色の薄肉中型種でも、完熟すると赤くなり甘みも強くなる。

問６９　接ぎ木栽培についての説明で、間違っているものは次のうちどれですか。

①昭和初期にアメリカで最初にスイカの接ぎ木栽培が実用化され、世界中に広がった。

②接ぎ木に使われる台木には根が丈夫で病気に強いものを使い、穂木には味がよいなど優良な生産を得られるものを使う。

③トマトやナスなどでは連作障害の対策として接ぎ木苗が使われている。

④スイカでは、ツル割れ病を防ぐために台木にユウガオが使われている。

問７０　スイートコーンの栽培についての説明で、正しいものは次のうちどれですか。

①発芽を早くするには、種子のとんがりを上向きにして土に差し込むとよい。

②スイートコーンは直まきが適しており、移植栽培はできない。

③受粉を確実にするために、同じ品種を２条以上まとめて植える。

④雌穂(しずい)の肥大を促すために、株元に出てくる分げつは取り除く必要がある。

空白ページ

空白ページ

日本農業検定